

新潟県立長岡聾学校

きこえ通信

令和5年度 第10号

当校 HP にも掲載中!
⇒R4~の通級便り、
R5.4~のきこえ通信

新潟県立長岡聾学校通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町2-1-13

Tel 0258-38-0210 (通級指導教室)

*18:00頃までお願いいたします。メールもご利用ください。

FAX 0258-39-5665

e-mail school@nagaokarou.nein.ed.jp

発行：令和6年2月

今年度も残りわずかとなりました。ご理解とご協力をありがとうございます。今回は長岡聾学校で行っている教育相談について、一般的な難聴以外のきこえにくさに関わる例についてお知らせいたします。

長岡聾学校は在籍している幼児児童生徒への指導・支援だけでなく、センター的機能として上中越の乳幼児から高校生までの教育相談を行っています。きこえに関わることは、当校へご相談ください。新生児スクリーニングの普及により、難聴の可能性のある乳幼児が発見されやすくなり、当校へも多くの乳幼児とその保護者が相談にきています。聴力測定や補聴器の試聴、保育や今後の就学の相談などを行っています。他に教育相談では、小学校入学前の就学時健診で難聴が発見された、学校生活を送るうちに難聴が分かったなどのケースがあります。その中で、最近相談がある「片耳難聴」、また最近話題になることがある「突発性難聴」、「APD(聴覚情報処理障害)/LiD(聴き取り困難)」について、以下に理解と支援についてお知らせいたします。

片耳難聴について*当校支援部作成資料より抜粋

○困難を感じる場面の例

- ・どの方向から聞こえているか、分かりづらい。
 - ・騒音下や話し合いの場面では、聞き取りづらく疲労が大きい。
 - ・聞こえにくい耳側から話されると、理解できなかつたり気がつかなくなつたりする。
- *「聞こえている」状態もあるため、大丈夫と思われることもあるが、個人によって困り感も様々である。

○支援方法の例

- ・注意を引きつけてから話す。・子どもの方を向いて話す。・話す時は、適宜間を取る。
- ・課題や重要な連絡は、板書やイラストなどで視覚的に示す。
- ・初めて学習する語句や難しい語句は、口頭だけでなく、文字で示す。
- ・話の内容の理解のために、くり返す他に言い換えることも重要。例：他に同じ意味の言葉は？
- ・話題を変える前に、それまでの内容が理解できているか、確認する。
- ・聞こえる方の耳に配慮した、座席を配置する。
- ・教室の雑音をできるだけ抑える。例：机や椅子にテニスボールを付けるなど。*参照：きこいるHP

（あれ？Aさんの話は分かるけどBくんの話は…）

ド ▲ ◆ ボ ◇ ○ の
チ * △ 分 □ ○、

それで明日は
昼休みに体育館で

あると嬉しいさりげない支援です。
他の子どもたちにも、通じる支援とも言えます。

突発性難聴について*参考「家来るドクター」HP

○原因と言われていること

- ・ウィルス性(鼻と耳が繋がっているため) ・内耳循環が良くない。 ・ストレスや疲れ、睡眠不足

○状態の例

- ・聞き取りにくい。片側が多い。 ・カクテルパーティー効果(雑音の中で必要な話を聞き取ることが)が難しい。

○対応方法

- ・発症後、すぐに耳鼻科医を受診する。早め(72時間以内または1週間以内と言われています)のステロイド投与で改善する可能性がある。*特にめまいがあれば、早めに受診する。(他の病気の可能性もある)
- ・風邪等の感染症の予防と、かかった場合の早めの手当て ・ストレスや疲れへの対応(よく休むなど)

早めの受診で改善する可能性あり。

APD(聴覚情報処理障害)/LiD(聴き取り困難)について*参考 NHK HP

昨年12月11日にNHK「ハートネットTV〜きこえているのにききとれない〜」で紹介されました。ここ10年ほど、話題になっています。診療できる、必要な検査ができる医療機関は全国でも多くありません。

○状態や困り感の例

- ・一般的な聴力検査(純音聴力検査、語音明瞭度検査)では正常値だが、言葉や会話が聞き取りにくい。
- ・困難さが理解されにくく、悩みを抱える。
- ・雑音があると聞き取りにくい。

○支援方法の例

- ・雑音を避ける。→ 定期テストや入試等を別室で受ける、静かな場所で話す、耳栓等の使用
- ・ロジャーフォーカス(受信機と送信機)の利用
→ 耳に直接音声を届けるシステム。右図⇒
- ・学校であれば、机や椅子にテニスボールを付け、雑音を軽減する。
- ・文字情報での伝達 → 授業資料をプリントで、筆談、UDトークなどの音声変換アプリの活用、話し合いの内容を箇条書きに、ICTの活用で「見える化」を(JamBoardなど)
- ・リスニングで聞き取りやすい方法を選ぶ → 肉声かCD等の音声データか、教室でスピーカーの近くか別室か
- ・座席の配慮 → 前から2〜3番目くらい。*参照:APDの理解と支援(小淵、原島;学苑社)、KIKOELIFE HP 他

フォナック社カタログより



きこえに関わる困難は外見からわかりにくく、「静かに困っている」場合が多いです。
児童生徒のきこえの様子、支援方法について、当校で相談を受け付けています。



新潟日報(R6.1.18)に掲載！倉又さん(長岡市)

「聴覚障害者も利用しやすいカフェ」年内に開業 「第3の居場所」

倉又さんは「障害を気にせず、のびのびと過ごせる場所があれば」と自宅や職場、学校以外の「サードプレイス(第3の居場所)」について知り、ご自身でそういう場所を作ろうと決めたそうです。そのアイデアが長岡市のNPO法人の地域作りのプロジェクトの審査会で認められ、大賞を受賞しました。ご自身が開くカフェでは、指さし注文や振動で店員を呼ぶツールを利用して、意思疎通を円滑にする工夫を行うそうです。また、手話を学んだり、聴覚障害について知ってもらったりするイベントを企画する予定とのこと。筆者自身も、倉又さんの「サードプレイス」のお考えをお聞きしたことがありました。その際に「難聴で手話が必要な人がいるが、手話の経験がない難聴の人もある。何かに限定してしまうと、入りにくい人も出てくる」というような内容と記憶しています。確かにきこえにくさはいろいろです。どの人にとっても居心地がいい場所は大切ですね。*ご本人のご了解を得て掲載しています。

当校 難聴通級指導教室の説明会を行いました。

少し前になりますが、11月22日に小学校6年生で中学生になっても引き続き通級を希望する、または中学生から通級利用を希望する児童と保護者の方に当校通級指導教室の説明会を行いました。中学校では自分のきこえをどう説明するか、余裕をもって考えてほしいという願いから千手小学校きこえの教室の先生と協力して、早めに行っています。参加した児童や保護者の方からは、「早く説明を聞いてよかった」、「中学校のイメージが分かった」などの感想がありました。該当生徒が入学する中学校の先生方、3月頃に引き継ぎなどのお話をさせていただくと思います。また、小学校、高校にも難聴のある児童生徒が入学する学校があります。相談がありましたら通級担当や当校へご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。